

# 千葉県私国立中入試概況

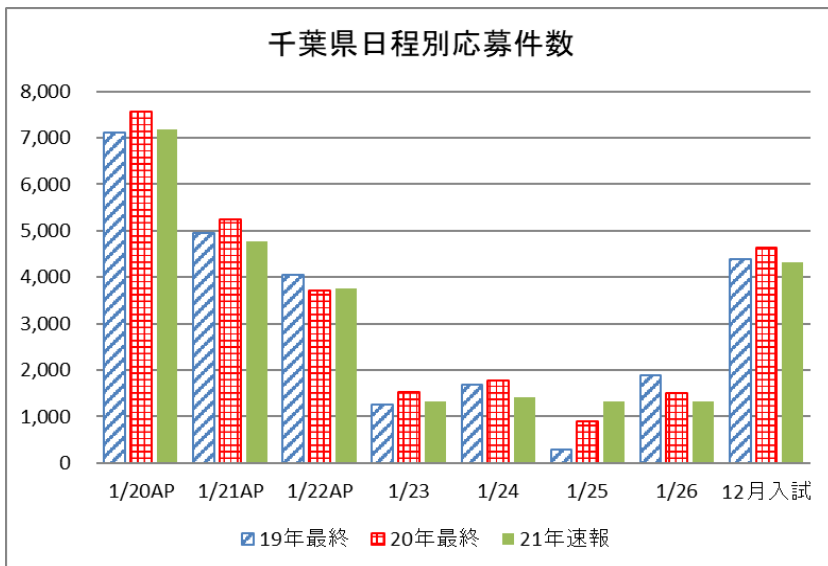
## 1. 概況 応募総数、実受験者数は減少、他都県からの受験生の流入が減っている

千葉県の私立中学入試は12月1日開始の推薦(第一志望・専願)入試と、1月20日開始の一般入試の2種類です。今年度の県内公立小6児童数は約53,200名で、昨年度より約100名減っています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は3月5日現在約29,800件でした。一部に未公表の学校があり、最終的にはもう少し上乗せされることとなります。昨年度の最終が約31,800件でしたから、未公表校が昨年並みの応募者数だったとしても昨年の水準には届かないこととなります。

実際の受験者数は約27,200名で、昨年度の最終より約2,400名減少、合格者数は約9,800名で昨年度の最終より約300名減っています。合格者数は、上位コース入試での入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校があつて、「入学できる」という意味ではもっと多くなりますが、実際の受験者数が8%減、合格者数は3%減ですから、平均倍率はやや緩和したこととなりますが、学校ごとの違いもあり、入りやすくなったとは言えないでしょう。

上のグラフは、この3年間の各校の入試の応募者数を日程別に合計して比較したもので、今年度は速報値です。12月の入試は、県立千葉・東葛飾の1次と私立の推薦・第一志望入試、12月実施の帰国生入試、昨年度と今年度は千葉大附属の書類審査の合計、APとあつるのは午前入試と午後入試の合計です。また、公立一貫校と昨年からの千葉大附属のような2段階選抜は1次の日程で集計しています。

12月入試の応募者数は、今年度は減っていますが、公立一貫校の減少が約150名、私立の推薦・第一志望入試の減少が約100名、千葉大附属の減少は約80名です。1月の入試では、1月20日の応募者数が最大で、



21日、22日と少なくなっていく。20日と21日は昨年より減っていますが、東京などからの受験生が、入試会場で万一新型コロナウイルスに感染した場合、無症状だったとしても2週間外出自粛となるため、2月1日からの入試を受験できなくなることもあつて、減っているのでしょう。この点で2週間以上確保できる1月10日開始の埼玉県の各校とは条件が違うことが影響しています。21日は、今年度は千葉大附属が22日から動いて増えましたが、同校を合計しても昨年度より減っています。22日は昨年とほぼ同数で、千葉大附属の2次が21日に動いて減った分を光英VERITASなどの私立の増加がカバーして昨年度並みとなりました。

23日以降は少ない応募者数ですが、23・24日の減少は、特に地元の受験生の早期決定志向が影響していると思われます。25日は増加、26日は減少が続いていますが、市立稲毛が曜日の関係で日程が動いていること、県千葉や東葛飾の2次も同日程で動いていることが影響しています。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別の上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨

年と比べたものです。グルーピングは各年度の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は、応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年度は昨年度用の予想難易度、今年度は今年度用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年度と今年度とは異なる場合があります。

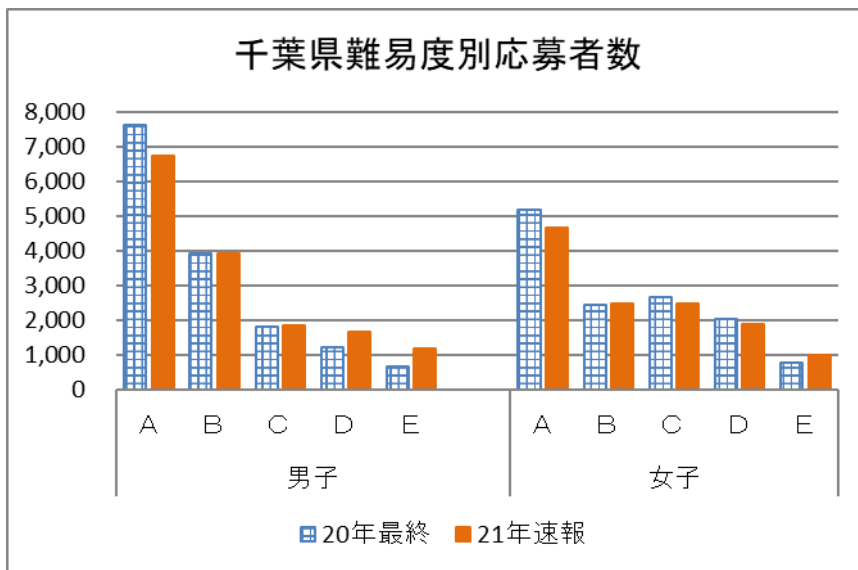
千葉県の特徴は男女とも難関校のAグループが最多になっていることで、東京23区や多摩地区、神奈川県や埼玉県とは異なります。男女ともAグループが最多なのは同じですが、女子のAグループへの集中度合いは男子よりは低く、その分C・Dグループ校の応募者が多くなっています。昨年度との比較では、男女ともAグループが

減っています。東京などからの受験生の減少が中心です。Bグループは男女とも昨年並み、Cグループは男子が昨年並み、女子は減っていて、Dグループは男子が増加、女子はやや減りました。小規模なEグループは男女とも増えていますが、D・Eグループは安全志向の強まりが応募者の増加に結び付いたのでしょう。

以下、各地域別に入試状況を見ていきます。県立千葉、東葛飾と市立稲毛は公立一貫校の資料をご覧ください。

## 2. 市川市～千葉市方面

まず女子校から。国府台女子学院の各回次合計の応募者数は、2019年度は増加、昨年度は2019年度並み、今年度は少し減っています。1月21日の1回が減少の



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で千葉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。なお、芝浦工大柏はGSの応募者を区分できないためBに、昭和学院と二松学舎大附柏の、応募者の希望コースを区分できない入試はEとしています。

- A…市川・渋谷幕張・昭和学院秀英・東邦大東邦
- B…芝浦工大柏・専修大松戸・千葉大附属・麗澤(AE)
- C…国府台女子・千葉日大第一・成田高校附属・麗澤(E E)
- D…光英 VERITAS(特待)・昭和学院(I A・AA)・東海大浦安  
・二松学舎大附柏(特選・グローバル)・日出学園・八千代松陰  
・和洋国府台女子
- E…暁星国際・三育学院・志学館・秀明八千代・翔凛・昭和学院(GA)  
・光英 VERITAS(一般)・西武台千葉・千葉明德・二松学舎大附柏(選抜)

中心です。他校併願の受験生が少し敬遠したのかもしれませんが、1回は合格最低点が少し下がっています。応募者減少の影響で、やや入りやすくなったかもしれませんが、他の回次は昨年度並みでした。

和洋国府台は2月の入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は昨年度よりも少し減っていますが、2月の入試を取りやめたからで、12月の推薦入試と1月20日の1回、24日の2回ともほぼ昨年度並み、合計すると若干増加しています。昨年度も応募者は増加していましたが、今年度は人気を維持しました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、総じて難度はあまり変わっていないようです。

続いて男女校です。トップ校の渋谷幕張は、昨年度は各回次合計の応募者数がやや増えていて、2月2日

の2次が増加の中心でしたが、今年度は減っています。帰国生入試は男子が少し増加、女子は昨年度並みでしたが、1月22日の1次、2月の2次は男女とも減りました。安全志向が高まり、挑戦受験生が減ったためでしょう。合格最低点は帰国と2次が昨年度並みだったものの、1次はやや下がりました。ただ、もともと高水準の入試でしたから、入りやすくなった印象はありません。東邦大東邦は原則完全一貫校で、高校募集は帰国生だけになっています。昨年度まで各回次合計の応募者数は少しずつ増え続けていましたが、今年度は減っています。帰国生入試と推薦入試は昨年度並みで、1月21日の前期、2月3日の後期で減少しました。併願前提の挑戦受験生が減っているようです。合格最低点は帰国生入試と推薦入試は昨年度並み、前期と後期はやや上がりました。ただ、難化するほどではなく、各回次とも難度に変化は見られません。

例年、幕張メッセで大規模な入試を行うことで有名な市川は、1月20日の1回で英語選択入試を取りやめました。2019年度は各回次合計の応募者数がやや減っていて、昨年度は前年度並みでした。今年度は少し減っています。12月の帰国生入試は前年度並みでしたが、1回と2月4日の2回が男女とも減っています。同校も併願前提の挑戦受験生が減っているのでしょう。合格最低点は1回が昨年度並み、2回はやや下がっていますが、出題内容の影響もあり、難度はあまり変わっていないようです。昭和学院秀英は、昨年度に続いて各回次合計の応募者数が減っていますが、昨年度は12月の第一志望入試を廃止したからで、1月の入試合計では昨年度並み、厳密には若干増えていました。今年度は1月20日午後の特別入試と2月2日の2回が男女ともやや減っていて、1月22日午前の1回は男子が昨年度と同数、女子は若干増加しています。特別入試や2回の減少は、同校も併願前提の挑戦受験生が減っているのでしょう。合格最低点は特別入試が昨年度並み、1・2回が上がっています。出題内容の影響はありますが、少し難化したかもしれません。

千葉日大第一は、2019年度は前年度の反動もあって、全体的に応募者が減った入試でしたが、昨年度はどの回次も応募者が増えていました。今年度も12月の第一志望入試と1月21日の1期は応募者の増加が続き、第一志望入試は合格最低点が少し上がってやや難化、1期は下がりましたが、出題内容の影響で、やはり少し

難化したものと考えられます。26日の2期は、諦めた受験生が多かったようで応募者が減りましたが、合格最低点は上がっていて、厳しい入試でした。東海大浦安も付属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は、2018年度から増加が続いていて、今年度も増加して人気が上がっています。女子も増えていますが、男子の増加が目立ちました。12月の推薦は合格最低点が未公表ですが、1月20日のA、24日のBとも上昇していますから、各回次とも昨年度に続いて難化したようです。

昭和学院は昨年度、2コース制からインターナショナルアカデミー (I A)、アドバンスアカデミー (A A)、ジェネラルアカデミー (G A) の3コース制に大きく変更しました。今年度は2回実施していた12月の推薦入試を一本化、1月20日午後の一般1回に算数1科目入試を新設、一般2・3回は日程を変更するなどがありました。各回次合計の応募者数は2019年度が増加、昨年度はさらに大きく増加しましたが、今年度は少し減っています。コース改編2年目で人気落ち着いたようです。適性検査型入試の合格最低点が少し下がっていますが、出題内容の関係でしょう。一部合格最低点が上がっている回次もありますが、総じて各コースとも難度に変化はなさそうです。

日出学園は2016年度以降各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、今年度は少し減りました。女子は各回次とも昨年度並みか、増えている回次も見られますが、男子はどの回次も減っています。全体に挑戦志向が低下している今年度の入試ですが、同校は難化敬遠の方が影響しているようです。2月1日午後15時の口頭試問型のサンライズ入試は性格上、合格最低点は公表されていませんが、12月の推薦、1月20日のI期、23日のII期とも昨年度並みの合格最低点で、難度は特に変わっていないようです。千葉明德は1月24日の入試を23日に移動、30日に入試を新設しました。昨年度まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、今年度は大きく減っています。もともと同校は応募総数の半数以上が適性検査型入試で、これが大きく減っています。市立稲毛も県立千葉も応募者が減っていましたから影響が直撃しました。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、実質倍率が3倍を超えた入試もあり、昨年度並みの難度は保っています。

国立の千葉大附属は、昨年度から一般入試を大きく

変更しました。2019年度までは4教科でしたが、昨年度からは1次として書類選考を実施、書類選考の合格者が2次を受験する2段階選抜になっていて、1次の書類選考は、小学校の報告書だけでなく「自己アピール申請書(必要に応じて資料添付可)」も提出、2次はこの自己アピール申請書の内容に基づいたプレゼン、作文、総合問題で、今年度はコロナ禍対応で実施が見送られましたが、本来は集団討論もあります。昨年度は新入試制度になっての敬遠傾向が出て、応募者数が減りましたが、今年も減っています。1次の書類選考で出願しても受験できなくなることがあることから、少し敬遠されているのかもしれませんが。書類選考の合格率は85%程度で、昨年度とあまり変わっていません。難度面も変化はなさそうです。

### 3. 八千代市～成田市方面

成田高附属は、12月の第一志望入試、1月の一般入試とも昨年度は応募者が増えていましたが、今年度は若干の増加で、昨年度並みと言ってよい水準です。一般入試は昨年度に続いて男子が少し増えて、女子はやや減りました。合格最低点も第一志望入試、一般入試とも昨年度並みで安定した入試でした。八千代松陰は適性検査型の入試を取りやめています。2019年度は各回次合計の応募者数がかなり増えていましたが、昨年度、今年度と続けて減っています。12月の推薦入試の応募者数が全体の過半数になる学校で、推薦入試の減少が今年度の減少の主要因です。合格者数はやや増加していて、12月の推薦入試と1月20日は合格最低点が少し下がっています。やや入りやすくなったかもしれませんが、21日以降はあまり変わっていませんから、難度も昨年度並みでしょう。秀明八千代は小規模な入試の学校で、昨年度までは各回次合計の応募者数が連続して少しずつ減っていましたが、今年度は増えました。特に専願の女子の増加が目立ちます。合格最低点は公表されていませんが、各回次とも難度は動いていないようです。

### 4. 房総地区

この地区の各校は寮を設置していて、他の学校とは性質が異なっています。君津市の翔凜は第一志望の推薦入試の応募者が増えていて、各回次合計も増加していますが、今年度も小規模な入試でした。木更津市の

暁星国際は一部の入試の日程を変更しています。同校も小規模な入試で、本稿執筆時点では一部の入試結果が未公表ですが、公表範囲では少し減っています。難度は変わっていないようです。志学館も曜日の関係で一部の入試日程を変更しています。例年小規模な入試で、今年度も同様でした。昨年、茨城県行方市から大多喜町に移転した三育学院は、本稿執筆時点で入試結果は未公表でした。

### 5. 常磐・北総・T×線方面

まず共学化した学校から。女子校の聖徳大附属女子は共学化し、校名を「光英VERITAS」に変更、S探究・LAクラスの2コース制から単一コースに改編、入試の設定も見直しました。VERITASはラテン語で「真理」の意味です。各回次合計の応募者数は昨年度の3倍以上に増加しました。男子も合計で400名以上が応募、女子は昨年度の1.8倍以上に増加していて、共学校志向の女子児童が女子校志向の児童よりも多いことを物語っています。入試の設定も変わっているため、合格最低点の単純比較はできませんが、概ね昨年度の進学クラス並みの難度だったようです。

芝浦工大柏はグローバルサイエンスクラスと一般クラスの2コース制です。2019年度は課題作文入試の男子の応募者が若干減ったものの、女子と1月23日の1回、27日の2回は男女とも応募者が少し増えていて、昨年度は1・2回の男子の応募者が増加、女子と課題作文入試は男女とも2019年度並みの応募者数でした。今年度は1回の男子の応募者がやや増加、女子は昨年度並み、2回と課題作文入試は男女とも少し応募者が減っています。遅い日程まで挑戦を続ける受験生が減っています。合格最低点は1回が昨年度並みですが、2回は2コースともやや下がっていて、課題作文入試は上がっています。出題内容の影響でしょう。難度は2コースともあまり変わっていないようです。

専修大松戸は、2017年度以降各回次合計の応募者数はほぼ一定の水準が続いていましたが、今年度は1月20日の1回が昨年度並み、26日の2回と2月の3回は男女とも少し減っています。同校も遅い日程まで挑戦を続ける受験生の減少が影響しています。合格最低点は1回がやや下がり、2回は少し上がっています。出題内容の影響でしょう。3回は昨年度並みで、難度は変わっていません。

麗澤はAE、EEの2コース制です。2019年度は前年度に減らした入試回数を再び4回に戻して応募者が増加、昨年度も勢いが続いて応募者の増加が続きましたが、今年度は回次によって増減が見られ、1月21日の1回は昨年度並み、25日の2回は減少、28日午後の3回は増加、2月1日午後の4回はやや減少しました。2~4回は日程が変更になっていますが、減少した回次は、日程変更よりも挑戦志向の受験生が減ったことが理由のようです。合格最低点は各回次とも昨年度並みで、難度に変化はなさそうです。

二松学舎大附属柏はグローバル・特選・選抜の3コース制で、入試に目立った変更はありません。各回次

合計の応募者数はこの3年間隔年的に増減していて、今年度は順番通り減っています。各回次とも減っていますが1月25日のグローバル・特選入試の減少が目立ちます。合格最低点は各回次とも概ね昨年度並みで、特にグローバルコースは今年度も高水準でした。各回次、各コースとも特に難度に変化はなかったようです。西武台千葉は小規模な入試の学校です。今年度は各回次2科4科選択から2科と英語を含む3科選択に変更しました。同校は通学範囲がかなり狭いこともあって、今年度も小規模な入試で、難度もあまり変わっていないようです。

## MEMO